

一般社団法人老人病研究会

60年のあゆみ



2013

ご挨拶

一般社団法人老人病研究会会長
川並 汪一

このたび当社は創立 60 周年を迎えました。この節目に簡単にご挨拶申し上げます。

わが国の歴史を振り返れば、1500 年ほど前の飛鳥時代に韓国や中国から医学が伝えられたといわれます。その後、交流が深まり江戸時代の鎖国期を迎え、漢方や鍼灸施術法はわが国なりに十分醸成されてきたようです。明治維新の抜本的な医療革命にもかかわらず鍼灸・漢方は庶民の間で途絶えることなく継続し現在も広く愛好されています。

当法人の創始者緒方知三郎先生は、江戸末期の蘭学の先達である緒方洪庵の孫に当たります。洪庵は岡山から大阪に出て適塾を開き大村益次郎、福沢諭吉、橋本左内、長与専斎など 600 人を越える幕末の偉人を輩出した教育者でもありました。彼は徳川幕府から西洋医学所頭取として江戸に召し出され、現在の東京大学医学部の基礎作りに関与した人物でもあります。

緒方知三郎先生は東京大学病理学教授を定年退職の後、当時では珍しい“老人病”、今でいう抗加齢の本格研究に先鞭をつけその功で文化勲章を受章されました。

近年WHO や NIH も東洋医学の高い効能を認め世界中に奨励しつつあります。当社は蘭学以来の西洋医学を基盤とし、中国伝統の中医学鍼灸により認知症予防・治療を目指して地域街ぐるみの啓発活動をおこなっております。

今後は、とくに高齢者の介護福祉、理学療法、看護の領域など多職種と連携をとり統合医療を推進してゆきたいと思っております。そうすることで現代の先進医学で手の届かない日常生活に根差した健康不安をカバーし少しでも社会のお役にたつように努力する所存です。

この機会を借りまして皆様から益々のご指導ご鞭撻をお願いする次第です。

社団法人老人病研究会創設の頃

緒方知三郎教授は、昭和 18 年に東京大学医学部病理学教室を退官し東京大学名誉教授となる。約 10 年間東京医科大学の学長・理事長を勤め、その後同大学名誉学長となった。

昭和 25 年頃、緒方先生の句“秋深し研究の夢捨てきれず”にある意欲をくみ取り、金子義晃先生(東大病理学教室の教え子)が昭和 26 年 9 月にご自分の同和病院(千代田区神田淡路町)の一角に緒方先生の研究の場を提供された。

昭和 27 年に東京医大を退任後、実弟の東京大学薬学部緒方章教授の研究室と唾液腺ホルモン様物質(パロチン)を精製し老化と老人病における機能を観察する研究を継続した。

昭和 26～28 年には文部省総合研究班「唾液腺ホルモンに関する研究」の主任研究者(研究組織 40 名)となり、昭和 31 年(1956)に唾液腺ホルモン研究会を発足した。その研究会は、法人資格はないものの日本唾液腺学会(300 名の会員)とし毎年学会を開催した。

昭和 28 年 11 月に金子義晃先生は緒方先生の知己の方々に働きかけ、社団法人「老人病研究会」とその付属機関としての「老人病研究所」を設立すべく厚生大臣に申請した。

昭和 29 年(1954)2 月 4 日に社団法人老人病研究会設立が認可された。設立に

あたった協力者には、勝沼精蔵(名古屋大学学長)、吉田富三(国立がんセンター所長)など当時の大物教授諸氏が参画している。資金的協力者として山口栄一社長(パロチンの製造元の帝国臓器の創業者)が当時の資金で 10 万円、徳川義親氏、鳩山千代子氏、来栖アリス氏(駐米大使の奥様)などが 5 万円を提供している。発足後、丸山幸太郎市立札幌病院院長や参木錦司秋田県立中央病院院長、滝沢延二郎千葉大学病理学教授などが非常勤研究者として参画し、パロチンや老年病学に関する研究指導を行った。



写真 1 設立時の役員・会員名簿と昭和 33 年 5 月の登記書類

社団法人老人病研究会設立

昭和 29 年(1954)に老人病研究所を付置施設とする社団法人老人病研究会の設立が認可された。東京大学医学部附属病院に老人科が設置されたのが昭和 37 年(1962)、東京都老人総合研究所の設立が昭和 47 年(1972)、国立長寿医療センターが平成 7 年(1995)(愛知県大府市)のことである。従って高齢者・老人を対象とした研究施設の名称として日本で最も古い歴史を有するものである。

昭和 32 年に緒方知三郎先生は文化勲章を授与された。また昭和 37 年に毎日新聞の連載「いつまでも若く」が 280 ページの書物となり、初版刊行の 2 か月後には第 7 版が増刷された。

昭和 39 年、日本医科大学病理学福士勝成教授が教授兼任で老人病研究所に着任、その後金子仁講師も研究に参画した。

本法人と老人病研究所はパロチンの研究と共に、ビタミン E の抗老化作用(ビタミン E 欠病症の病理)にも関与した。昭和 37 年にその第 1 報(寺尾清先生ら、ビタミン E が老年性変化に及ぼす影響についての実験的研究：第 51 回日本病理学会総会)が発表された。医学者によるビタミン E の研究としては日本で先駆けをなすものであった。その他に動脈硬化、前立腺がん、甲状腺ホルモンなどの研究が続いた。

昭和 43 年には日本医科大学へ移管され、緒方先生は初代老人病研究所所長として米寿の祝いを受けられた。これらのことは、日本経済新聞社の「私の履歴書」に詳しく書かれている。

なお、老人病研究会の年報は、第 1 号が昭和 34 年(1959)、第 2 号が昭和 39 年(1964)に刊行された。発足後 11 年間の歩み(昭和 40 年まで)は丸山幸太郎先生により 36 ページの小冊子としてまとめられた。年度別の研究内容、学会発表、研究者の出入り、緒方先生の講演会、著述活動などが紹介されている。日本医大への移管(昭和 43 年)前の 4 年間、および移管後の 10 年間併せて 14 年間は年報の発行が途絶えた。第 3 号は 1980 年の発刊であり、1981 年以降、4 号以下はほぼ毎年刊行され現在は第 35 号(2013 年)に至っている。

日本医科大学への移管：昭和 43 年(1968)

研究会・研究所の発足 13 年後、緒方先生ご自身お年を重ねられる一方で、



写真 2：著書【いつまでも若く】と【私の履歴書 41 号】。後者は緒方先生ご本人と、作家の久保田万太郎、政治家の椎名悦三郎、銀行家の小原鉄治郎との合本



写真3 日本医大への移管後5年目頃のスナップ

研究の拡大に伴う設備、研究員の増員等経済的膨張に伴う運営面の困難さが出てきた。緒方個人の色彩の濃い研究所・研究会にも他組織への移管問題が起こってきた。

当時、国立老人病研究所の構想などもあったが、研究の自由を国や官僚に縛られたくないとの緒方先生の考え方があった。当初の具体的移管先については東京医大(緒方先生が初代学長)が候補に挙がったが折衝は不調となった。

一方、緒方先生自身が日本医科大学の病理学教室の教授として教鞭をとられており、また福士勝成・金子仁先生などが老人病研究所と連携を持っていた関係で、昭和43年(1968)4月に日本医科大学へ移管された。受け手となった日本医科大学側は石川正臣学長であった。(石川先生は緒方先生の逝去後、第二代研究所長を勤められた)

老人病研究所は日本医科大学に付置研究所として移管されたが、社団法人老人病研究会は老人病研究所の事務所を使用する約束で分離独立することになった。緒方先生は研究所所長兼基礎部門責任者として引き続き同和病院の敷地内で活動した。一方、臨床部門責任者には村地悌二教授(元東大医学部老人科)が就任し、診療施設は千駄木の付属病院内に開設した。



写真4 緒方知三郎先生胸像 東京芸大船越保武先生作の像3体は日本医科大学老人病研究所、東京医科大学本部、東京大学病理学教室に設置されている。

昭和46年、金子仁先生(国立東京第一病院検査科病理主任)が基礎部門の教授に昇任し基礎部門責任者となった。

昭和47年(1972)1月に老人病研究所は、日本医科大学千駄木プレハブキャンパス2号館(丸山ワクチン研究室隣)に移転。研究所の基礎・臨床両部門が同一キャンパス内で教育、診療、研究に従事することになり日本医科大学老人病研究所の地歩が確立した。

昭和48年8月に緒方知三郎所長の逝去、昭和49年6月に石川正臣(日本医科大学学長・理事長)先生が本法人会長と老人病研究所所長に兼務就任した。

昭和49年11月に臨床部門村地教授が逝去され、昭和50年1月般若博司講師(付属病院第一内科)が臨床部門助教授となり臨床部門責任代行となった。

桜木キャンパスへ

昭和52年(1977)8月に老人病研究所基礎部門は桜木キャンパス(旧東京薬科大学女子部)へ移転し、病理部門(金子仁教授)、生化学部門(中島信治助教授)、免疫疫病理部門(杉山誠講師)、疫学部門(高橋修和助教授)の4部門体制となった。社

団法人老人病研究会の事務所も移転。

昭和 53 年 4 月、臨床部門は老人病研究所から離れ、付属病院老人科となり、その後も老年科外来として付属病院にて継続活動中である。

昭和 58 年(1983)石川正臣先生の学長就任に伴い、当社団会長職はそのままで研究所所長に金子仁教授が就任、同 10 月の杉山講師の転出に伴い大綱弘助教授(国立第一病院検査科病理)が免疫病理部門の責任者に就任した。

この年に金子仁先生は、学術映画「老化とビタミン E(25 分)」を完成させた。老化のフリーラジカル説の提唱者であるアメリカのネブラスカ大学の Harman 教授を訪ね、更にはハワイ大学 Porta 教授、イギリスのリーズ大学の Meed 教授等のデータや対談を紹介した。この映画は、いわば最近の抗酸化・アンチエージングの研究や業績紹介の先駆けであった。この学術映画は医師や薬剤師その他の集会で放映し、2 万人以上の人々に「日本医科大学老人病研究所」を PR したことになりかなり役立ったといえる。

昭和 62 年(1987)3 月に金子所長の死後、東北大学医学部教授を退官し老人病研究所に在籍された菊地吾郎先生が日本医科大学学長になられ、さらに老人病研究所所長を兼務された。

昭和 63 年(1988)、年報 11 号で当時の永井汎副会長が「この 2 年間で老人病研究会の極めて重要なメンバーが逝去された」とし追悼文を載せている。

金子仁先生(常務理事・所長)、高橋末雄先生(日医大理事長)、石川正臣先生(会長・日医大学長)、般若博司先生(理事)、丸山幸太郎先生(理事)、緒方富雄先生(評議員)。

新丸子キャンパスへ

平成 2 年(1990)4 月に老人病研究所は新丸子付属第二病院（現武蔵小杉病院）C 棟 2 階に移転し、本法人事務も同時に移転。老人病研究所は病理部門(大綱弘助教授)、生化学部門(中島信治教授)、免疫部門(大國壽教授)、疫学部門(高橋修和教授)、分子生物学部門(石崎良太郎教授、日本獣医畜産大学分子腫瘍学研究室を兼務)の 5 つの基礎研究部門を整えた。臨床部門として第二病院(現武蔵小杉病院)健康管理科(関谷政雄助教授)が設置された。

移転の折、12 ページにわたる研究所紹介のパンフレットが作成された。それによると、5 部門でスタッフは約 30 名、使用部分の総面積は 1078㎡、動物実



写真 5 当時の千駄木付属病院と桜木町の老人病研究所

験設備が226㎡であった。

また、研究所と本法人の関係も紹介されている。「老人病研究所の母体であった社団法人老人病研究会は昭和43年に研究所を日本医科大学に移管後も、たがいに密接に連携してその運営がなされており、研究会事務局も老人病研究所におかれている。研究会の目的は、老人性疾患の病因とその予防に関する理論と実証的な研究あるいはその委託ないし受託、健康増進とその確保のための企画と実施にある。老人病に関する研究、診察に対する援助等を介して老人の福祉社会に寄与することにある。」

平成2年7月生化学部門の中島信治教授が所長就任。

平成6年(1994年) 免疫部門の大國壽教授が所長就任。

平成8年(1996)4月 研究所が大学院(医学博士課程)を担当することとなる。教授は全国公募となり生化学部門(太田成男)、分子生物学部門(江見充)、病理学部門(川並汪一)、疫学部門(南史郎)が就任。大学院重点化宣言により大学院学科目主任教授として学位審査権を獲得した。臨床部門には平成10年4月より安室尚樹講師(第二病院健康管理科)就任しその後大坂元久講師が部門長代理をつとめた。研究所は学術フロンティア事業を実践した。

平成10年(1998)川並汪一教授が研究所所長就任。

活性化委員会を設置

平成14年(2002) 太田成男教授が研究所所長就任。本法人はそれまでに実施していた山梨県早川町健診事業(疫学部門)が地理的にも研究課題としても問題を抱えており、むしろ武蔵小杉の地元での活性化を図ることを決意した。高橋会長は「活性化委員会」を設定し、その後1年間で7回にわたる会議を重ねた。地域社会との交流による啓発活動、「ご長寿ネット案」を提案し大森前会

長、福士前副会長の助言もあり活動を開始した。活性化委員会の中心的メンバーは以下の諸氏であった。

高橋修和：社団法人老人病研究会会長、川並汪一：同副会長、太田成男：老人病研究所所長、佐久間淳：群馬松嶺福祉短期大学教授、大庭建三：日本医科大学老人科教授、湧口泰昌氏、佐藤貞夫氏。

平成15年(2003)川並副会長が川崎市/中原区小杉町のコミュニティ組織である“つきやまサロン”と毎月の交流を開始し大学院学生と共に健康に関する座談会を行っ



写真6 上段：石川正臣先生、下段
2冊は金子仁先生の著書



写真7 平成2年当時の研究所
の配置図と教職員名簿

た。

平成 16 年(2004)5 月老人病研究所は創設 50 周年記念講演会を開催した。当法人はインターネットホームページ“ご長寿ネット”を開設、講演会活動、よろず相談室などの情報をアップし始めた。また、市民公開講座“健康の集い”を開始、年に 2~3 回、高齢者疾患をテーマに啓発講演会が実施されている(80~180 名の聴衆)。講師は主として日本医科大学武蔵小杉病院の臨床家が担当し今年度 2013 年で 20 回目となっている。

平成 18 年(2006)4 月に川並汪一教授が老人病研究所所長に再度就任。7 月に本法人高橋会長が逝去され、本法人として早川町健診事業から正式に撤退した。川並所長が本法人会長を兼務し、國島修先生が副会長に就任した。以来國島副会長は川崎市医師会、看護協会その他の団体との交流に尽力した。

認知症街ぐるみ支援ネットワークを開始

平成 19 年(2007)5 月老人病研究所(病理学部門)が文部科学省の“戦略的基盤研究社会連携事業(5 年間)”の大型助成金を得て新規事業として【認知症街ぐるみ支援ネットワーク】が開始された。本法人と川崎市とを含む 3 施設の連携事業として【認知症相談センター】を設立(元看護学校事務+図書室跡)した。本法人は運営を援助することになった。

平成 20 年(2008)日本医科大学老人病研究所、社団法人老人病研究会と川崎市は

【認知症国際フォーラム】を有楽町の東京国際フォーラムで開催しスウェーデン、ベルギー、九州など各地より代表が参加した。

平成 21 年(2009) 川並汪一教授定年退職に伴い文科省事業と認知症相談センター代表に

北村伸教授が就任しセンター顧問に川並汪一名誉教授が就任した。研究所所長には疫学部門の南史朗教授が就任。本法人会長は川並汪一名誉教授が継続することになった。

【認知症国際フォーラム】“認知症に東洋医学(鍼灸と漢方)が挑む”(川崎市エポック中原)を開催。(北京中医薬大学、天津中医薬大学、筑波大学医学部、後藤学園中医学研究所、和漢方専門医などが参画した。約 1 時間の収録内容を NHK 教育テレビが放映した。



写真 8 元看護専門学校校舎である武蔵小杉キャンパス南館に研究所の看板がかけられ、認知症相談センターが設置された。

平成 22 年(2010) 第 1 回統合医療による認知症 Gold-QPD 育成講座の開講：

Gold-QPD(ゴールドキューピッド)とは【黄金の矢でヒトを恋に目覚めさせるキューピッド】の神話に由来する。その矢を鍼に置き換え認知症予防と改善を目指す専門鍼灸師を育成する。そしてさらに高齢者の不定愁訴を改善する教育プログラムを設定し推進する。

平成 23 年(2011) 第 2 回認知症 Gold-QPD 育成講座や健康講座その他を開催。

中国南陽市の国際中西医结合学会にて川並汪一会長が招待講演。

平成 24 年(2012) 第 3-4 回認知症 Gold-QPD 育成講座や健康講座その他を開催。

中国天津市の国際中西医结合学会にて川並汪一会長が招待講演。

平成 25 年(2013) 中国泰安市泰山医学院の国際神経学サミット学会で会長が招待講演。第 5 回認知症 Gold-QPD 育成講座(10 月 26,27 日予定)、市民公開講座その他を開催。

平成 25 年(2013) 4 月一般社団法人老人病研究会への移行認可なる(厚労省所属から内閣府所属)。定款その他を全面的に改定した。

会 長：川並 汪一、

常務理事：北村伸、兵頭明、廉隅紀明、

理 事：黒川顕、大庭建三、若林庸道、佐藤貞夫、湧口泰昌、千代勝彦、本田啓二郎、中西憲幸、直江登、玉木厚子、グスタフ・ストランデル、野村進

監 事：上田 淳、石橋榮次

事 務：居山奈美子



写真 10 運営準備会議(毎月第 2 火曜日開催)

メンバーの写真

前列左より兵頭明、川並汪一、北村伸、廉隅紀明、後列左より湧口泰昌、千代勝彦、田中勝、佐藤貞夫、居山奈美子、本田啓二郎

公開講座“健康の集い”10年のあゆみ

回数	開催日時	演題名	主な講演者	協賛企業
1	2004年7月	老人性痴呆(ぼけ)にならないために	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 准教授 北村伸	エーザイ
2	2005年7月	認知症の発症予防と対策	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 准教授 北村伸 丸山玲子 高橋多喜子	エーザイ
3	2006年6月	痛風の予防と対策	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 助手 竹永 清人	鳥居薬品
4	2006年8月	地域で支える認知症	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 准教授 北村伸 馬場先淳子 柿沼矩子	エーザイ
5	2007年4月	脳卒中最前線	日本医科大学付属病院 内科 教授 片山泰朗	田辺製薬
6	2007年6月	皮膚につくカビのお話し	日本医科大学武蔵小杉病院 皮膚科 准教授 青木見佳子	ヤセソファーマ
7	2007年10月	加齢による“もの忘れ”と思いませんか	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 准教授 北村伸 飯田茂 綾部理恵子	エーザイ
8	2008年11月	あまくみるな！生活習慣病	日本医科大学付属病院 老人内科 教授 大庭建三	ツムラ
9	2009年1月	あまくみるな！高齢者肺炎	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 助教 山口朋禎	MSD 製薬
10	2009年9月	こわくないぞ！認知症	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 教授 北村伸	エーザイ
11	2010年7月	知って得する糖尿病の知識	老人病研究会 國島修副会長	MSD 製薬
12	2010年10月	認知症についてもっと知識を深めよう ～アルツハイマー病以外の認知症について～	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 教授 北村伸 若松直樹 石井智香	エーザイ
13	2011年2月	高血圧！忍び寄る魔の手 ～若年者から高齢者まで	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 副院長 宗像一雄	ノバルティス
14	2011年7月	増えている大腸がんのお話	日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター 鈴木英之部長	大鵬薬品
15	2011年11月	認知症を理解して正しく付き合う	日本医科大学武蔵小杉病院 内科 教授 北村伸 グスタフ・ストランデル	エーザイ
16	2012年6月	高齢者に多い精神科の病気	日本医科大学武蔵小杉病院 精神科 教授 岸泰宏	ヤセソファーマ
17	2012年10月	東洋医学による認知症の予防と治療	後藤学園中医学研究所 所長 兵頭明	セイリン
18	2013年2月	今からでも間に合う健康長寿のための 食事学と生活習慣	日本医科大学付属病院 老人内科 教授 大庭建三	
19	2013年6月	心不全ってなに？ 知っておきたいその実態	日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科 教授 佐藤直樹	第一三共
20	2013年11月	高齢者と皮膚病の話 ～皮膚がんと痒み～	日本医科大学武蔵小杉病院 皮膚科 部長 安斎真一	エーザイ

認知症 Gold-QPD 育成講座

(ブロンズ・シルバー・ゴールドコース)

認知症 Gold-QPD 育成講座（ブロンズ・シルバー・ゴールドコース）は平成 22 年（2010）10 月に開始されました。育成講座と同時開催される公開講座セミナーは今回 2013 年 10 月で計 5 回の開催となりました。特別公開講座と合わせそのポスターをご紹介します。



第 1 回認知症 Gold-QPD 育成講座のセミナー・懇親会にて
左から川並汪一会長、後藤修司全日本鍼灸学会会長、渥美和彦日本統合医療学会理事長、韓景献天津中医药大学教授、國島修副会長、北村伸常務理事。



第 1 回統合医療による認知症 Gold-QPD 育成講座（2010 年 10 月 2,3 日開催）の受講生、講師、法人役員など参加者全員の記念写真（港区赤坂一ツ木通り赤坂大飯店にて）

社団法人老人病研究会・認知症関連事業

第1回統合医療による 認知症Gold-QPD育成講座

「Gold キュービッド が 黄金の矢(鍼)を持ち
今こそ、認知症治療に隔の目を！」

趣 意

- 1) 認知症の西洋医学的知識と高齢社会の介護、保険制度などの情報を理解修得
- 2) 認知症に特化した韓景献式鍼灸術を実際に学習し修得
- 3) 認知症予防と治療の本邦初の試み事後教育、修了者にブロンズコース認定証を授与
- 4) 認知症患者さんのみならず家族や介護関係者にとっても大きな助け

講師陣

- 1) 中医鍼灸系：韓 景献、兵 謙明、小 保 浩、高 士 将典、河 原 保祐
- 2) 西洋医学系：北 村 伸、若 松 直樹、國 島 修、川 並 洋一
- 3) 高齢福祉系：グスタフ・ストランドデル、藤 崎 紀明

対 象：鍼灸師国家資格保持者と医師
日 程：平成22年10月2日(土)、3日(日)
会 場：港区赤坂3-16-7 赤坂KTビル3階
主 催：社団法人老人病研究会
後 援：学校法人後藤学園、(株)舞浜倶楽部
連絡先：認知症Gold-QPD推進事務局(赤坂KTビル2階)
TEL 050-5531-9986(問合せ13:00-17:00)
FAX 03-4496-4802
E-mail:gold-qpd@rja.jp
Homepage: <http://www.nms.ac.jp/gochojunet/>

・受講料8万円(教材、資料代含む)、受付締め切りは9月26日(定員20名)
・当該講座の第1日目最終章は認知症鍼灸法開発者(韓景献教授)の基調講演、その技術の公開、パネルディスカッションで構成され、有料一般公開講座を兼ねる。
・有料一般公開講座の詳細な内容はポスター(別紙)に提示し先着60名。

第1回認知症 Gold-QPD 育成講座ブロンズコースのご案内
(2010年10月2,3日、赤坂・上海大飯店)

社団法人老人病研究会・認知症関連事業
有料一般公開講座(第1回認知症Gold-QPD育成講座第1日の最終章)

認知症に特化した 韓景献式鍼灸法の実績と展望

基調講演：「認知症鍼灸の実績と展望」
韓景献教授：天津中医药大学付属第一病院
認知症鍼灸治療法開発者

パネルディスカッションと鍼灸技術の公開
「認知症統合医療の課題と可能性」

司 会：國 島 修(社団法人老人病研究会副会長)
韓 景 献(天津中医药大学教授、社団法人老人病研究会顧問)
川 並 洋一(日本医科大学名誉教授、社団法人老人病研究会会長)
北 村 伸(日本医科大学准教授、文科省社会連携事業代表)
兵 謙 明(学校法人後藤学園、中医学研究所所長)
小 保 浩(埼玉医科大学・東洋医学センター)
若 松 直樹(日本医科大学・文科省社会連携事業認知症相談センター)

日 程：平成22年10月2日(土) 16:00~18:00
(パネルディスカッション終了後懇親会)
対 象：鍼灸師資格保持者、医師、理学療法士、一般(先着定員60名)
会 場：港区赤坂3-16-7 赤坂KTビル3階
主 催：社団法人老人病研究会
後 援：学校法人後藤学園、(株)舞浜倶楽部
連絡先：認知症Gold-QPD推進事務局(赤坂KTビル2階)
TEL 050-5531-9986(問合せ13:00-17:00)
FAX 03-4496-4802
E-mail:gold-qpd@rja.jp
Homepage: <http://www.nms.ac.jp/gochojunet/>

参加費：2万円(懇親会費を含む、書いてご参加下さい)
締切り：平成22年9月26日(日)(先着60名)

第1回認知症 Gold-QPD 育成講座「認知症統合医療の課題
と可能性」

第2回統合医療による 認知症Gold-QPD育成講座

ーブロンズコース受講のご案内ー

趣 意

- 1) 認知症に関する全体的な(西洋医学+中医学+高齢社会者への)教育
- 2) 当日2日間のブロンズコースは、高度なスキル・コース・ゴールドコースへの育成教育
- 3) 実践的ゴールドコースの資格試験に合格して認知症Gold-QPD資格認定証修得
- 4) 最大の特権は健康長寿と認知症予防、治療を目指す韓景献式鍼灸の実績と展望
- 5) 認知症予防と治療の確立、治療することは本人、家族、介護者にとっても大きな助け

講師陣

- 1) 中医鍼灸系：韓 景献、兵 謙明、小 保 浩、高 士 将典、河 原 保祐
- 2) 西洋医学系：北 村 伸、若 松 直樹、國 島 修、川 並 洋一
- 3) 高齢者介護福祉系：グスタフ・ストランドデル、藤 崎 紀明

対 象：1 医師者医療に経験豊富な鍼灸師
2 医師者先任医療に従事している鍼灸師
3 認知症サーター資格を有する鍼灸師
4 介護福祉士の資格を有する鍼灸師
5 中医学基礎レベルの知識を有する鍼灸師
6 認知症と鍼灸治療に興味ある医師

日 程：平成23年6月25日(土)、26日(日)
会 場：日本医科大学同窓会 橋桜会館(東京都文京区2-20-7)
主 催：社団法人老人病研究会
後 援：学校法人後藤学園、(株)舞浜倶楽部
連絡先：健康長寿Gold-QPD推進事務局(港区赤坂3-16-7赤坂KTビル2F)
TEL 050-5531-9986(問合せ13:00-17:00)
FAX 03-4496-4802
E-mail:gold-qpd@rja.jp
Homepage: <http://www.nms.ac.jp/gochojunet/>
受講料6万円(教材、資料、一般公開講座含む)、受付締め切り6月20日(定員30名)

有料一般公開講座 6月26日 14:30~(当該講座の第2日目最終章)
基調講演と技術的デモンストレーション(認知症鍼灸法開発者韓景献教授)
認知症統合医療に関するパネルディスカッション
一般・専門費 6,000円、学生 4,000円(先着150名)
※申し込みは上記連絡先へ

第2回統合医療による認知症 Gold-QPD 育成講座ブロンズ
コースのご案内(2011年6月25,26日、日本医科大学同窓
会 橋桜会館)

社団法人老人病研究会・認知症関連事業
有料一般公開講座(第2回統合医療認知症Gold-QPD育成講座の一般公開部門)

認知症公開講座セミナー 開催のお知らせ

ー西洋医学と中医学による統合医療鍼灸コラボレーション治療ー

[I] 基調講演：鍼灸による認知症の予防と治療の実績
デモンストレーション：韓景献式鍼灸法の実技
講師：韓景献(天津中医药大学教授、鍼灸研究開発局長)
(社団法人老人病研究会顧問)

[II] パネルディスカッション：
「統合医療(西洋医学と中医学)による認知症治療の将来展望」
パネリスト
社団法人老人病研究会
会 長 川並洋一(日本医科大学名誉教授)
副会長 國島修(内科系学会保険連合顧問)
顧 問 韓 景 献(天津中医药大学教授)
常務理事 北 村 伸(日本医科大学教授)
常務理事 兵 謙 明(後藤学園中医学研究所所長)
理 事 グスタフ・ストランドデル(舞浜倶楽部総支配人)

日 程：平成23年6月26日(日) 14:30~17:25
会 場：日本医科大学同窓会 橋桜会館
東京都文京区向丘2-20-7 電話 03-3827-1873

参加費：一般・専門家 6,000円
学生 4,000円
定員150名 先着順
締切り：平成23年6月20日
申込み：http://www.nms.ac.jp/gochojunet/index_g-qpd.html
gold-qpd@rja.jp
お問い合わせ：健康長寿Gold-QPD推進事務局(東京都港区赤坂3-16-7赤坂KTビル2階)
TEL 050-5531-9986、FAX 03-4496-4802

第2回認知症公開講座セミナー「統合医療による認知症治療
の将来展望」

社団法人老人病研究会・認知症関連事業
第3回 **統合医療によるGold-QPD公開講座**

【I】特別講演 13:00～14:10

高齢者の救急医療とAEDの使い方

講師 黒川 剛 (日本医科大学武蔵小杉病院 院長)

【II】認知症Gold-QPD育成講座 (1) 14:20～15:10

医療訴訟について

講師 嶋金 善徳 (株)損害保険ジャパン 医療・福祉開発部 リーダー)

大災害に高齢者施設はどのように対応したか

講師 佐藤 光男 (舞浜倶楽部 施設長)

【III】認知症Gold-QPD育成講座 (2) 15:20～17:00

パネルディスカッション

「認知症高齢者との出会いと臨床体験」

- ① 患者さんと初めての出会い体験 ② 施設経過中の意思疎通と相互理解の促進
- ③ 高齢者上の問題点とその解決策 ④ 管理上の問題点とその解決策
- ⑤ Gold-QPD推進本部への要望 ⑥ 座長によるまとめ

【IV】認知症Gold-QPD資格認定証授与式 17:00～17:50

- ① 来賓挨拶
- ② 資格認定証授与、受賞者代表の挨拶
- ③ 終業への挨拶

Gold-QPD研修生のみの参加

日時 平成23年12月23日(祝) 13:00～17:00

会場 日本医科大学同窓会 (橋桜会館 橋桜ホール)

文京区向丘2-20-7 (夏目漱石亭隣)

地下鉄有楽町線「東大前駅」2番出口 (駅方面出口) より徒歩7分

対象 一般市民、医師、鍼灸師、看護師、介護福祉関係者

参加費 無料 (認知症Gold-QPD研修生は別途)

申込み・お問い合わせ Email: gold-qpd@rja.jp Fax: 03-4496-4802

特別公開講座 統合医療による Gold-QPD 公開講座「高齢者の救急医療と AED、認知症高齢者との出会いと臨床体験ほか」(2011 年 12 月 23 日、日本医科大学同窓会 橋桜会館)

社団法人老人病研究会・認知症関連事業
**統合医療による
認知症Gold-QPD育成講座**

—第3回ブロンズコース受講のご案内—

【趣 意】介護と療育教育を含む西洋医学と中医学鍼灸による認知症治療の講座

- 1) 実地に基づく認知症への全方向的な教育講座
- 2) ブロンズコース (2日間) 修了生はシルバーコース (2日間) で実地研修
- 3) シルバーコース修了生は研修施設での臨床研修により資格認定証授与
- 4) 患者さんの生涯医療と資格保持者の生涯教育制度の推進
- 5) 西洋医学の側面からのエビデンスの収集と報告

【受講者の資格】

- ★ 高齢者施設に就業した経験のある鍼灸師
- ★ 高齢者在宅療養に経験のある鍼灸師
- ★ 認知症サポーター資格のある鍼灸師
- ★ 介護福祉士資格のある鍼灸師
- ★ 中医学基礎レベルの知識を持つ鍼灸師
- ★ 認知症と鍼灸治療に興味のある医師

日 程: 平成24年6月23日(土) 24日(日) 両日共 午前9時～午後4時

会 場: 日本医科大学同窓会 橋桜会館

文京区向丘2-20-7 TEL 03-3827-1873

主 催: 社団法人老人病研究会

川崎市中原区小杉町1-396 (日本医科大学老人病研究市内)

後 援: 学校法人後援学園、(株) 舞浜倶楽部

受講料: 6万円 (全教材・資料代を含む)

締 切 り: 平成24年6月15日(金)

お申込み・お問い合わせ先:

社団法人老人病研究会

認知症Gold-QPD推進事務局

Tel: 044-733-2007 Fax: 044-733-6688

Email: gold.qpd@gmail.com

URL: http://www.nms.ac.jp/gochojunet/index_g-qpd.html

注 意: 認知症公開講座セミナーの開催 (6月23日 午後2時～4時 同会場)

認知症三焦の鍼灸の基礎講座と実技公開 (豊原誠教授・兵衛明所長ほか)

第3回統合医療による認知症 Gold-QPD 育成講座ブロンズコースのご案内 (2012 年 6 月 23,24 日、日本医科大学同窓会 橋桜会館)

社団法人老人病研究会・認知症関連事業
(第3回認知症Gold-QPD育成講座の一般公開部門)
**認知症公開講座セミナー
開催のお知らせ**

—中医学鍼灸との統合医療コラボレーション治療—

第一部: 基調講演と認知症鍼灸実技 (三焦の鍼灸) の公開
講師: 韓 景献 (社団法人老人病研究会顧問)

(天津中医药大学教授・鍼灸研究所所長)

第二部: パネルディスカッション

三焦の鍼灸 (治療実績と高齢被施設関係者の感想と提言)

北村 伸 (日本医科大学教授 神経内科)

兵衛 明 (後援学園中医学研究所所長)

グスタフ ストランデル (舞浜倶楽部社長)

パネリスト 認知症Gold-QPD育成講座

資格認定者・ゴールド研修生代表

被施設者・育成連携施設関係者代表

第三部: 懇親会 (第二部終了後)

日 程: 平成24年6月23日(土) 午後2時～4時

会 場: 日本医科大学同窓会 橋桜会館

文京区向丘2-20-7 TEL 03-3827-1873

主 催: 社団法人老人病研究会

後 援: 学校法人後援学園、舞浜倶楽部

参 加 費: 一般市民・専門家 6,000円

学生 (医学部ほか、専門学校) 無料 (先着順 定員150名)

懇 親 会: 2,000円

締 切 り: 平成24年6月15日(金)

お申込み・お問い合わせ先:

社団法人老人病研究会

認知症Gold-QPD推進事務局

Tel: 044-733-2007 Fax: 044-733-6688

Email: gold.qpd@gmail.com

URL: http://www.nms.ac.jp/gochojunet/index_g-qpd.html

第3回認知症公開講座セミナー「三焦鍼灸」

社団法人老人病研究会・認知症関連事業
**第4回 統合医療による
認知症 Gold-QPD 育成講座**

この育成講座は健康長寿と認知症予防・治療を目指す鍼灸師・鍼灸師の養成と体験すること

でき、実践に基づく認知症への全方向的な教育講座でブロンズコース (基礎コース2日間)、

シルバーコース (臨床実技コース2日間) ゴールドコース (実践的実技コース) の3コース

からなる。ゴールドコースはブロンズ、シルバーコース修了者が研修施設での5名の施設を

体験した修了者に認知症 Gold-QPD 資格認定証を授与する。

＜受講資格＞

- ・高齢者施設に就業した経験のある鍼灸師
- ・高齢者在宅療養に経験のある鍼灸師
- ・認知症サポーター資格のある鍼灸師
- ・介護福祉士資格のある鍼灸師
- ・中医学基礎レベルの知識を持つ鍼灸師

＜ブロンズコース＞

日 程: 平成25年1月19日(土)、20日(日) の2日間

会 場: 日本医科大学新丸子校舎

＜シルバーコース＞

日 程: 平成25年3月9日(土)、10日(日) の2日間

会 場: (後) 舞浜倶楽部 (千葉県千葉市)、学校法人後援学園 (大田区大森)

【募集人数】: 30名

【締 切 り】: 平成25年1月10日(木)

【参 加 費】: 10万円(ブロンズコースとシルバーコース 申込用納入額)

※ゴールドコース 2万円 (別途申込み、納入)

主 催: 社団法人老人病研究会 ※研修中継点小杉町1-396 (日本医科大学老人病研究市内)

後 援: 学校法人後援学園、(株) 舞浜倶楽部

＜お申込み・お問い合わせ先＞
社団法人老人病研究会 認知症 Gold-QPD 推進事務局 TEL: http://www.gochojunet.com
お問い合わせ Email: gold.qpd@gmail.com

第4回統合医療による認知症 Gold-QPD 育成講座ブロンズ・シルバーコースのご案内 (2013 年 1 月 19,20 日、日本医科大学新丸子校舎 武蔵小杉)

認知症公開講座セミナー 開催のお知らせ

～中医学鍼灸との統合医療コラボレーション治療～

基調講演「鍼灸による認知症の予防と治療の実際」

講師：韓景献教授（天津中医薬大学）

関係者による症例報告・施術体験談

日時：平成25年1月20日（日）

13:00～16:20

会場：日本医科大学新九子校舎

川崎市中原区小杉町2-297-2

アクセス：JR南武線武蔵小杉駅下車5分、東急東横線新九子駅下車5分

主催：社団法人老人病研究会

後援：学校法人後藤学園、(株)舞浜倶楽部

参加費：一般・専門家4000円、医療関連学生2000円（定員100名）

締切り：平成25年1月10日（木）

※セミナー終了後（17:20より）に参加者の懇親会を予定しております。

＜お申込み先・お問合せ＞

社団法人老人病研究会 認知症 Gold-QPD 推進事務局 URL: <http://www.gochojunet.com>

申込み先 Fax: 044-733-6688（裏面をご利用下さい）

お問合せ E-mail: gold.qpd@gmail.com

第4回統合医療による認知症公開講座セミナー「中医学鍼灸とのコラボレーション・症例報告」

第5回 統合医療による 認知症 Gold-QPD 育成講座 受講生募集中!

ブロンズコース
(西洋医学・基礎コース)

日時：平成25年10月26日（土）～27日（日）（2日間）

会場：日本医科大学新九子校舎（川崎市中原区）

シルバーコース
(東洋医学・臨床実証)

日時：平成25年11月16日（土）～17日（日）（2日間）

会場：(株)舞浜倶楽部（千歳市清安町）
学校法人後藤学園（大田区大森）

募集詳細

定員：30名（定員になり次第締め切り）

締切り：平成25年10月7日（月）

受講料：10万円（申込時納入・ブロンズ、シルバーコース分納可）

※上記2コース修了後はゴールドコースへ進みます。
（研修施設において実践的実習を修得 別途20,000円）

受講資格 ★高齢者施設に従事した経験のある鍼灸師
★高齢者在宅療養に経験のある鍼灸師
★認知症サポーター資格のある鍼灸師
★介護福祉士資格のある鍼灸師
★中医学基礎レベルの知識を持つ鍼灸師

主催：一般社団法人老人病研究会 川崎市中原区小杉町1-396（日本医科大学老人病研究所内）

後援：学校法人後藤学園、(株)舞浜倶楽部、セイリン(株)

お申込み・お問合せ

一般社団法人老人病研究会 認知症 Gold-QPD 推進事務局

お申込み 下記URLよりお申込みください

●ホームページのフォーム (<http://www.gochojunet.com>)

●E-mail: go-chojo-1@gmail.com (※申込書ダウンロード可)

●FAX: 044-733-6688 (または郵送 ※申込書ダウンロード可)

※TEL: 03-3531-0000 (受付時間 10時～18時) 日本医科大学老人病研究所内

お問合せ

E-mail: gold.qpd@gmail.com

詳細はホームページをご覧ください

<http://www.gochojunet.com/>

第5回統合医療による認知症 Gold-QPD 育成講座ブロンズ・シルバーコースのご案内（2013年10月26,27日、日本医科大学新九子校舎 武蔵小杉）

一般社団法人老人病研究会・認知症関連事業
(第5回認知症 Gold-QPD 育成講座の一般公開部門)

創立 60 周年記念 特別講演開催のお知らせ

～中医学鍼灸との統合医療コラボレーション治療～

1. 西洋医学側からみた統合医療について
田尻 孝（日本医科大学学長）
2. 鍼灸による認知症の予防と治療の実際
韓 景献（天津中医薬大学教授）

日時：平成25年10月26日（土）13:00～16:20
会場：日本医科大学新九子校舎（川崎市中原区小杉町2-297-2）
アクセス：JR南武線武蔵小杉駅下車5分、東急東横線新九子駅下車5分

主催：一般社団法人老人病研究会
後援：学校法人後藤学園、(株)舞浜倶楽部
日本医科大学武蔵小杉病院、セイリン(株)
社団法人有隣厚生会重宝病院、
学校法人敬心学園、
社会福祉法人敬心福祉会、
特別賛助老人ホーム和楽園

参加費：一般・専門家3000円、
医療関連学生無料
定員：100名
締切り：平成25年10月7日（月）
※セミナー終了後（17:20より）に
参加者の懇親会（有料2000円）を
予定しております。

お申込み・お問合せ
一般社団法人老人病研究会 認知症 Gold-QPD 推進事務局

お申込み 下記URLよりお申込みください
●ホームページのフォーム (<http://www.gochojunet.com>)
●E-mail: go-chojo-1@gmail.com (※申込書ダウンロード可)
●FAX: 044-733-6688 (または郵送 ※申込書ダウンロード可)
※TEL: 03-3531-0000 (受付時間 10時～18時) 日本医科大学老人病研究所内

お問合せ E-mail: gold.qpd@gmail.com
詳細はホームページをご覧ください
<http://www.gochojunet.com/>

第5回統合医療による認知症 Gold-QPD 育成講座・一般社団法人老人病研究会創立60周年記念特別講演会「西洋医学からみた統合医療、鍼灸による認知症の予防と治療の実際」

一般社団法人老人病研究会 / 老人病研究所役員など一覧

年号	西暦	会長	副会長	常務理事	社団年報の号数	老人病研究所所長
昭和 29 年 2 月	1954	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟			設立認可
30 年	1955	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟			緒方知三郎
31 年	1956	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟			緒方知三郎
32 年	1957	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟			緒方先生文化勲章授章
33 年	1958	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟			緒方知三郎
34 年	1959	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟		1 創立 5 周年記念	緒方知三郎
35 年	1960	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟			緒方知三郎
36 年	1961	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟			緒方知三郎
37 年	1962	緒方知三郎	勝沼精蔵・藤田全悟			緒方知三郎
38 年	1963	緒方知三郎	藤田全悟			緒方知三郎
39 年	1964	緒方知三郎	藤田全悟		2 創立 10 周年記念	緒方知三郎
40 年	1965	緒方知三郎	藤田全悟			緒方知三郎
41 年	1966	緒方知三郎	藤田全悟			緒方知三郎
42 年	1967	緒方知三郎	藤田全悟			緒方知三郎
43 年	1968	緒方知三郎	藤田全悟			日本医科大学に移管
44 年	1969	緒方知三郎	藤田全悟			緒方知三郎
45 年	1970	緒方知三郎	藤田全悟			緒方知三郎
46 年	1971	緒方知三郎	藤田全悟			緒方知三郎
47 年	1972	緒方知三郎	藤田全悟			緒方知三郎
48 年	1973	緒方知三郎	丸山 正	富士勝成・金子仁		緒方先生逝去
49 年	1974	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁		石川正臣
50 年	1975	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁		石川正臣
51 年	1976	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁		石川正臣
52 年	1977	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁		桜木キャンパスに移転
53 年	1978	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁		石川正臣
54 年	1979	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁		石川正臣
55 年	1980	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁	3	石川正臣
56 年	1981	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁	4	石川正臣
57 年	1982	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁	5	金子仁
58 年	1983	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁	6	金子仁
59 年	1984	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁	7	金子仁
60 年	1985	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁	8	金子仁
61 年	1986	石川正臣	丸山 正	富士勝成・金子仁	9	金子仁
62 年	1987	丸山 正	永井 汜	富士勝成・菊地吾郎	10	菊地吾郎
63 年	1988	丸山 正	永井 汜	富士勝成・菊地吾郎	11	菊地吾郎
64 年 / 平成元年	1989	丸山 正	永井 汜	富士勝成・菊地吾郎	12	菊地吾郎
2 年	1990	丸山 正	永井 汜	富士勝成・菊地吾郎	13	第 2 病院キャンパスに移転
3 年	1991	丸山 正	富士勝成	高橋修和	14	中島信治
4 年	1992	永井 汜	富士勝成	高橋修和	15	中島信治
5 年	1993	永井 汜	富士勝成	高橋修和	16	中島信治
6 年	1994	永井 汜	富士勝成	高橋修和	17	大国寿
7 年	1995	永井 汜	富士勝成	高橋修和	18	大国寿
8 年	1996	永井 汜	富士勝成	高橋修和	19	大国寿
9 年	1997	大森暢久	富士勝成	高橋修和	20	大国寿
10 年	1998	大森暢久	富士勝成	高橋修和・川並汪一	21	川並汪一
11 年	1999	大森暢久	富士勝成	高橋修和・川並汪一	22	川並汪一
12 年	2000	大森暢久	富士勝成	高橋修和・川並汪一	23	川並汪一
13 年	2001	大森暢久	富士勝成	高橋修和・川並汪一	24	川並汪一
14 年	2002	大森暢久	富士勝成	高橋修和・川並汪一		太田成男
15 年	2003	高橋修和	川並汪一	大庭建三・太田成男	25・26	太田成男
16 年	2004	高橋修和	川並汪一	大庭建三・太田成男		太田成男
17 年	2005	高橋修和	川並汪一	大庭建三・太田成男	27	太田成男
18 年	2006	川並汪一	國島 修	大庭建三・太田成男	28	川並汪一
19 年	2007	川並汪一	國島 修	太田成男・宗像一雄	29	川並汪一
20 年	2008	川並汪一	國島 修	太田成男・宗像一雄	30	川並汪一
21 年	2009	川並汪一	國島 修	宗像一雄・北村伸	31	川並汪一
22 年	2010	川並汪一	國島 修	宗像一雄・北村伸	32	南史朗
23 年	2011	川並汪一	國島 修	北村伸・兵頭明・佐藤貞夫	33	南史朗
24 年	2012	川並汪一	國島 修	北村伸・兵頭明・佐藤貞夫	34	南史朗
25 年	2013	川並汪一		北村伸・兵頭明・廉隅紀明	35	南史朗

一般社団法人 老人病研究会 60年のあゆみ

平成 25 年 10 月 26 日発行

発 行 一般社団法人 老人病研究会

発行者 川並 汪一

〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町 1-396

日本医科大学老人病研究所内

TEL 080-8837-0758/044-733-2007 FAX 044-733-6688

e-mail go-choju-1@nms.ac.jp URL gochojunet.com

printed in JAPAN © 2013